

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	法人全体の理念、又グループホームにおける、具体的な5つの指標を決めており意識できるようにしている。	全職員が目標の意義付けを徹底できるようにしていきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	常に理念が共有できるよう会議や、掲示等を利用し、理念についても話あえる場をもうけている。研修会などでも再度確認意識していけるようにしている。	より具体的に理念について話し合いを行い、全職員が深めていく必要がある。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	開設から6年間経過し、少しずつ理解してくれる家族や、地域のかたたちが増えてきていることを自覚しています。こちらからばかりでなく地域から声をかけていただきすることもあります。(ボランティアのこと畑の心配など...)	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	毎年「すずらんまつり」の開催の際は、近隣にチラシを配りながら日常におつきあいができるような声かけをしています。知り合いもできましたしボランティアで来所される方もあります。	もっとたくさんの近隣の方が自由に行き来できるようにしていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域のお祭りや、催し等行ける時は積極的に参加している。開催場所には、利用者さんの知り合いが必ずおられ会話がはずむ事が多い。又年に一度「すずらん祭り」をおこない、地域の方をお呼びして一緒に楽しむ機会をつくっている。地元ボランティアの方々も多く来所されています。	多くの方に来訪していただけるよう、より交流を深めていけるようにしていきたい。
6	事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	事業所が行うボランティア活動を通して、地域で住む高齢者の方たちとの交流の場を持ちお互いの、閉じこもりの生活にならないための支援をおこなっている。	自分たちに余裕ができたなら、もっと地域に住む高齢者に対して果たしていける役割について話し合いができるようになっていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	改善が必要なことがあれば、取り組む努力をしています。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	H20年度は3回おこないましたが21年度は、運営推進会議を開催していませんでした。		H22年度は町に相談しながら行っていくことを指導監査で話しあいました。十分に相談を受けながら、サービスの向上につなげていけるよう運営推進会議を開催していきたいとおもいます。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	少しずつ、いろいろな事柄で、相談することが増えてきています。		H22年度からの運営推進会議も相談していく予定です。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。			学べる機会を作っていきたい。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	会議の際などに、学習会をおこなっています。		
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書、重要事項説明書などを使いながら、理解を得るようにしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様の意見などは、職員会議だけではなく、全事業所の会議などにも報告している。職員の異動に関しては特に報告していませんが、聞かれた際には応えるようにしています。		事業所だけではなく、外部へも表す機会をつくるようにしていきたい。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	健康状態については、変化があった時受診の報告をおこなっている。その金銭の使用については、毎月書面で報告している。		ただし職員の異動に関しては、特に報告はしていませんでした。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	理事会、運営委員会を通して、反映できるように取り組んでいる。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	共同組合という組織でもあり、全員が組合員であり意見を述べる必要とされている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	必要があれば、会議等で目的を十分一致させ適した時間に調整できるようにしている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動が、利用者に不安を与えないような配慮は常に心がけている。		一時期異動が多かったことがあったが、最小限になるようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	計画的に育成に対するプログラムが組まれていない。	計画的に、具体的に取組む努力をしていきたい。毎月のミーティングでは、ミニ研修会をおこなっている。
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	同事業所同志の意見交換等はあるが積極的には行っていない。又他の同業者とのネットワーク作り等についても不足している。	町内にも同じ施設ができる予定があるので、一緒に学ぶ場を持ちたい。事業所内においても今後勉強会等行う計画をしている。
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	休みの確保や、手当等については整備されつつある。問題があれば、その都度話し合いを行い、解決できるよう取り組んでいる。	精神的なストレスを軽減できるような環境整備に取り組みたい。
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	年に一度の事業所全体の研修会の取り組みや、認知症の研修会の呼びかけなどおこなっている。	職員のスキルアップを図り、個々が常に向上心をもって働きかけるよう、学習会などの取り組みを増やしていきたい。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	ご本人の不安な気持ちを十分に受け止め、安心していただけるようにしている。	知識を広め、必要としている支援を見極めどんな状況に対応できるようにしたい。
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	十分な聞き取りをおこなっている。相談日から利用まで時間がかかりそうときは、利用に限らず相談等の支援をする旨をお伝えし、不安な気持ちを軽減できるような声かけを行うようにしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	初めは、ご家族からの情報や、ご本人の様子で、一番必要な支援からおこなうが、安心できることを最優先に考えている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	家族との話し合いは十分におこなうようにしている。1週間、10日くらいは、無理のないプランにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員は、「共におこなう」「共に生活する」ことを目指して日々の業務を取り組んでいる。		意識が向けられないことがあった場合は、勉強会で理解していけるようにしていきたい。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	情報をより多く共有できることに努め、一緒に考える機会を作っている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	よりよい関係作りができるような直接的な事実はないが、簡単な相談等を受けたことはある。		良い関係作りができるような支援をおこなってきたい。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	以前の生活歴等から、ご本人の生活の継続ができるような支援を行える努力をしている。		ご本人の希望に沿えるよう、家族や職員との話し合う機会を多くできる限り支援していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	職員一人ひとり、孤立利用者さんをつくらない努力をしている。		
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	関係を断ち切らず、継続していけるよう努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
33 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	できる限り、ご本人の希望を把握する努力をしている。全入居者さんに関して「本人本位」につとめている。		
34 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族、ご本人から機会をみながら生活歴、馴染みの暮らし方の情報をもらいながらケアに生かしている。		
35 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	利用者様の表情などから、どのように過ごされていたか、今はどのような状態なのか、職員は、敏感に感じながらすごしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族、職員からの情報を大切にしている。		ご本人がより良く暮らすための、適切な計画を立てていきたいが、課題が具体的にみいだせないことが多いため力をつけていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	体調の変化などで迅速にプランを計画したり、見直しの期日を守り見直しを行うようにしている。		常に現状に即した介護計画がたてられるよう、学習をしていきたい。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録がうまく活用されていない。用紙の工夫なども行っている。		日々の生活に活かせることができる工夫、介護計画と連動していけるようにしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	一人ひとりの要望には、できる限り応じていけるような支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	主にボランティア、文化・教育機関に協力を受けながら、現在は支援させていただいている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	同事業所内の、ボランティア事業(一日宅老所)のサービスを利用している。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	現在は積極的に行っていない。		地域包括支援センターとの協働を今後取組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	今までは、あまり家族の希望がかなわなかったことが多かったが、かかりつけ医との話し合いのもと、今後は今までよりも希望を取り入れて支援ができるようになってきた。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力医院の精神科医師に、一人ひとりの相談を受けている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	同事業所の看護師に相談したり、訪問看護との関係づくりもできたので、相談等の支援をうけていけるようになった。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	利用者の入退院を繰り返して行く中で、関係作りができ、連携がとれるようになってきた。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	105歳の利用者に対して、家族、職員、訪問看護、病院と連携して終末期を迎えた。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度の方のご家族とは、今後のことについての話し合いを行っている。医師とも相談している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>住居が変わる時は、利用者に必要とおもわれる情報は、多くお伝えするようにしている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>職員全員が、入居者様のプライバシーを守るような配慮を心がけている。(トイレ誘導は、周りの方に気を配りながら声かけをおこなったりなど…)</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>ご本人の意思決定の場面を多く作っていけるように意識している。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>職員の都合に合わせた支援は、しないよう全員で話し合っている。</p>		<p>できる限りその人らしい暮らしができるよう職員全員でより取組んでいきたい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>行きつけの店がある時は、家族から情報をもらい行けるようにしている。行った際には、以前と同じように会話の場面がみられる。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食事の準備は、できる方約半数位のかたは、調理、片づけ等に参加し会話を楽しみながらおこなっている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒、タバコに関しては、訴えもあまりなく積極的に支援はしていない。お酒に関しては正月のみビールは、ノンアルコールで焼き肉の時などのみとなっている。外食に行ったときに希望があれば、たまに喫煙の機会もある。ホーム内は全館禁煙となっている。		頻繁に要望があれば、応えることができるようにしていきたい。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	おむつを使用している方、自立歩行が困難な方も、排泄パターンを知るようにしてトイレで排泄していただいている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は、毎日できるだけ入りたい時に入れるようにしている。(午後が多い)		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	就寝の時間は決めておらず寝たい時に眠れるような支援をしている。日中も横になったりできるスペースは、確保している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	家族、ご本人から情報を取り寄せ少しでもご本人様を知ることができるようにし、今までしてきたことが継続して行えるようにしていきたいと取り組んでいる。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	地域のお祭りなど外出の際には、ご自分のお金を所持して頂き自由に使える支援に取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	できる限り自由に外出できるようにしている。要望には、応える努力をしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	動物園、食堂、公民館、選挙、時にはのど自慢の予選会など希望があれば応えられるような支援にとりくんでいる。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙のやりとりの支援はないが、本人の希望や、荷物が届いた時など自ら電話をかけられるようにしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも訪問可能な状態にしている。居室又はホール内の皆さんと過ごしたい場所 で自由にさせていただいています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ミーティング等で勉強会をおこなっている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	開所当初は、一時期鍵をかけていたことがあったが、すぐに会議等で話し合いを行い鍵をかけない取り組みをしている。開所当初から居た職員以外は、鍵が開いているのが当たり前になっている。鍵をかけることの弊害も理解していると思います。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は、常に安全と安心を念頭において毎日のケアにとりくんでいる。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	物品をなくす事ではなく、そのような状況にならないような入居者さんの環境を整えることに注意をはらう努力をしている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	緊急対応マニュアルを作成している。		マニュアルを使用し、事故別の対処法の勉強会をおこなう予定。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	応急手当の訓練を定期的には行っていない。		防火管理責任者を中心に、救急救命など定期的に訓練していきたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練等は、行っているが地域の人への働きかけは積極的にはおこなっていない。		いざというときには、協力して頂けるよう日頃から声をかけあえるようにしていきたい。又こちらから協力できることがあれば協力しあえるような関係作りを目指したい。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	生活上のリスクについては、話し合いを持っています。暮らしを支えながらリスクを最小限におさえられるよう工夫をかさね支援にあたっています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	体調の変化については、全職員が迅速に対応(特にバイタルチェックをおこなう)と報告を徹底している。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	全ての薬品にたいしての理解は、できていない。		意識的にそれぞれの入居者さんの病気を知った上でそれにとまなう薬が何であるのか学べるように働きかけていきたい。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	朝食には、ヨーグルトの摂取をさせていただき、水分摂取量の把握、プルーン等の摂取、温湿布等状況入居者の状況に応じ対応を変えている。排泄表の利用により排便回数も把握できるようにして、日にちによっても対応を変えている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	必要に応じて、食事ごとの口腔ケアに取り組んでいる。クルリーナブラシの使用を行っている方もおられる。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分に関しては水分チェック表の利用(1000mm ³ を目指す)、食事は、食べられなかったときは情報を共有する。または、他の食材(おにぎり、そうめんなど)に変更することもあり。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い、うがいの徹底。拭き掃除の際は、塩素系漂白剤を希釈した水を使用している。		
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	できる限り作りおきはせず食べきれるようにしている。使用したふきんとうについては使用したたびに塩素系漂白剤で消毒をおこなっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	裏口と正面玄関が多少わかりにくくなっていますが、芝生やフェンス、プランターなどをおいて入り口を示すようにしています。	冬場は、特にわかりにくいかと思います。初めて来られる方には、事前に説明していけたらとおもいます。
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	夏場は、花畑から撮ってきた草花を所々に飾り、安心できる環境作りにとり組んでいます。冬場は、観葉植物、造花を利用して生活感が味わえるようにしています。又一年の行事もその都度感じられるように食事、飾り付けなど工夫しています。(クリスマス、豆まき、ひな祭り、お彼岸等々)	
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	できる限り、入居者様が望まれる場所で過ごしていただけるよう、行きたいところへいけるような支援をさせていただいています。	多少仕切られた空間が少ないかと思います。今ひとつ工夫が今後必要かと思っています。
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	入居契約の際には、馴染みの物をもってきていただき安心できる空間作りをいただけるようお願いしています。	
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	湿度、温度については、こまめに調節しています。必要があるときは、換気も行い室内のにおいの配慮もおこなっています。まずは、においのもとから取り除くようにしています。	暖房機の関係上、気温が高くなりがちです。こまめな温度調節を行っていききたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>一人ひとりの身体機能を職員全員で把握するようにして、その方の状況に応じた見守り、声かけをおこなっている。安全になるべく自分で行えるような支援にこころがけています。</p>	
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>わかる力を活かしていく事を意識して取り組んでいます。声かけ等で混乱や、失敗を感じる場面は、あまりつくられていないようにおもいます。</p>	<p>わかると思われることは、行っていますが、まだまだ見いだせていないことがあると思います。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>夏場は、畑、ハウス、芝生など自由に活動できるようにしています。現在は、ベランダの野良猫と戯れることくらいしかできていません。</p>	<p>冬場でも、もう少し外に出る機会が増やせたらとおもいます。</p>

サービスの実績に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>ほぼすべての利用者</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p> <p>毎日ある。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>ほぼすべての利用者</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>ほぼすべての利用者</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>利用者の2/3くらい</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>ほぼすべての利用者</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>ほぼすべての利用者</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない</p> <p>ほぼすべての家族</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p> <p>数日に一回程度</p>

. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	少しずつ増えている。
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	職員の2/3くらいが
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	ほぼすべての利用者が
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	ほぼすべての家族等が

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
利用者様と一緒にいることを常にこころがけるようにしています。なるべく一人で不安を感じている方がいないように、目を配れるようにしています。職員一人ひとりが利用者さんの要望に応えようと一生懸命にとりくんでいます。